

MBC ラジオ『ココが聞きたい！ドクタートーク』2024.12.7
第 1127 回放送分『泌尿器科疾患』1 回目
ゲスト：榎田英樹ドクター



二見いすず

今月のドクタートークは、「泌尿器科疾患」をテーマにお送りいたします。
お話は、鹿児島大学病院 泌尿器科の 榎田英樹（えのきだ ひでき）ドクターです。
榎田さん、どうぞよろしくお願ひいたします。

榎田英樹Dr.

よろしくお願ひいたします。

二見いすず

さっそくですが、今日は何についてお話しいただけますか？

榎田英樹Dr.

今日は前立腺肥大症についてお話します。
前立腺は男性のみにある臓器ですが、年齢とともに前立腺が肥大して尿道を圧迫し、
尿が出にくくなる病気です。
高齢男性に多い前立腺肥大症ですが、
二見さんはどのくらいの割合の方が当てはまると思いますか？

二見いすず

そうですね、半数くらいでしょうか？

榎田英樹Dr.

実はもっと多くて、70代では8割、80代では9割の男性が
前立腺肥大症になっていると言われてます。

二見いすず

それほどまでに多いとは知りませんでした。

榎田英樹Dr.

初期の症状は、夜間の頻尿です。夜中に2回以上トイレに行く方は一度泌尿器科を受診されることをおすすめします。

二見いすず

先ほど、「前立腺肥大症は、尿が出にくくなる」というお話でしたが、初期の段階では、逆に頻尿になるんですね。

榎田英樹Dr.

そうなんです。肥大した前立腺が膀胱を刺激するため尿意を感じて夜間にトイレに起きるようになります。そして次の段階になると、残尿感を感じるようになります。同時に尿の切れが悪くなったり、尿が出るまでに時間がかかったりすることもあります。症状が進むと、尿をすべて出し切ることができず、腎不全になるケースもあります。

二見いすず

初めは「最近、夜中にトイレに行くことが多いな」と少々軽くみていたものが、放っておくと、ひどくなるんですね。

榎田英樹Dr.

はい。最後には、尿閉の危険が増します。

二見いすず

尿閉というのはなんでしょうか？

榎田英樹Dr.

「尿」に「閉じる」と書いて尿閉というのですが、これは膀胱内に尿が十分溜まっているのに尿が出せない状態です。実は、抗ヒスタミン薬を含む風邪薬を飲むと、尿閉の原因となりますので、注意するようにしましょう。

二見いすず

これからの季節、風邪薬を飲むことが増えるので、これは気をつけたいですね。

榎田英樹Dr.

高齢の方の風邪薬は副作用の少ない葛根湯や麻黄湯などの漢方薬をお勧めします。

榎田英樹Dr.

あとは、便秘にも気をつけていただきたいです。

便秘の方は、便の塊が膀胱の出口を後ろから圧迫するので、尿が出にくくなります。

便通を良くすることは、すっきりとした排尿にもつながります。

二見いすず

そうなんですね。ところで、前立腺肥大症の治療はどのようなことをするのですか？

榎田英樹Dr.

薬物治療が基本ですが、尿閉を繰り返すなら手術になります。

内視鏡手術が一般に行われ、数日で退院できます。

二見いすず

よく分かりました。

今月は、「泌尿器科疾患」をテーマにお送りいたします。

お話は、鹿児島大学病院 泌尿器科の 榎田英樹ドクターでした。

榎田さん、ありがとうございました。

榎田英樹Dr.

ありがとうございました。